

特定非営利活動法人手賀沼トラスト会報 第 20 号(発行日:平成 25 年 3 月 1 日)

## 「沼のほとり」

発行責任者 遠藤織太郎(TEL:04-7182-0387) 編集責任者 國方幸生(TEL:04-7184-3385)

事務所:我孫子市白山二丁目 13 番 5 号

e-mail:info@teganuma-trust.jp

ホームページ:http://teganuma-trust.jp/



(ケビン・ショート先生)

### 創立 15 周年記念シンポジウム

#### 『手賀沼とともに』 ~自然と共生する豊かで潤いのある地域づくり~

手賀沼トラストは本年 2 月 28 日創立 15 周年を迎えました。創立 15 周年記念事業の第 1 弾として、2 月 16 日(土)、千葉県手賀沼親水広場水の館研修室に於いて、東京情報大学環境情報学科教授でナチュラリストとして活躍しておられるケビン・ショート先生をお招きして基調講演と、我孫子野鳥を守る会、我孫子の景観を育てる会、NPO 法人手賀沼森友会の参加を得て、「手賀沼とともに」~自然と共生する豊かで潤いのある地域づくり~ をテーマにパネルディスカッションを開催しました。この日は終日強風が吹く寒い一日でしたが、173 名の方の参加を頂きました。

13 時から遠藤理事長の開会の挨拶に続いて、貴重な時間を割いてご出席下さった星野我孫子市長のご祝辞を頂き、13 時 20 分から基調講演が始まりました。第 1 部基調講演、第 2 部パネルディスカッションについて、村山さん、平井さんにより報告していただきました。

(15PJT 國方幸生 記)

#### 第 1 部 基調講演「ケビンの里山自然観察記」から (ケビン・ショート先生)

基調講演は 13 時 20 分から、「ケビンの里山自然観察記から」と題して、パワーポイントを使って、約 1 時間 20 分かけて行われました。講演はケビン・ショート先生の日本での経験をもとに、とてもわかりやすく、流暢な日本語で大変興味深い内容でした。

講演の中で、最初から最後まで何度も出てきたのは、「景観」という言葉です。「景観」という言葉は普段、私たちは何げなく使っている言葉ですが、今日の話で、とても大事な、奥深い意味があることが分かりました。

その中で今日の講演のテーマにもある「里山」という言葉が出てきました。「里山」という言葉も誰でも知っている言葉ですが、あまり深く考えたことはありませんでした。「里山」は日本の原風景とも言われ、昔から日本人が生活してきたく当り前の環境です。森があり、水辺があり、そこに人間が住む環境のことです。

「里山景観」という言葉も出てきましたが、日本にはこのような美しい場所が沢山あり、ケビン先生のスライドの中にもお気に入りの場所が、沢山紹介されておりました。里山は、人と自然がうまく共存して暮らせる永遠に持続できる環境です。そこは沢山の生き物たちも暮らせる環境でもあります。これは、人にとっても、自然にとっても大変重要なことです。里山は、人間が長い年月をかけて、自然に働きかけながら、作り上げてきた大切な場所なのです。

ケビン先生の話の中で「人間は景観の中に身を置く動物で、人間と景観の関係が切れるとおかしくなる。そこから精神的な問題、社会的な問題が起るのではないか」という話がありました。「なるほど」と思いました。

ケビンさんも、日本にしかないこの「里山」の素晴らしさに魅せられて、日本に定住したに違いありません。私たち日本人が気付かなかった「里山」というある種の「文化」を、外国人であるケビン先生に教えられたような気がします。今日のお話は、大人だけでなく、これから社会を、担っていく子どもたちにも是非聞かせたいと思いました。（村山 正 記）

## 第2部 パネルディスカッション「手賀沼とともに」～自然と共生する豊かで潤いのある地域づくり～



(写真左から、遠藤理事長、ケビン・ショート先生、間野さん、富樫さん、松清さん、坂巻さん)

パネラー	我孫子野鳥を守る会会長	間野吉幸さん
	我孫子の景観を育てる会顧問	富樫道廣さん
	NPO 法人手賀沼森友会理事	松清智洋さん
	NPO 法人手賀沼トラスト理事	坂巻宗男さん
コメンテーター	東京情報大学教授	ケビン・ショート先生
コーディネーター	NPO 法人手賀沼トラスト理事長	遠藤織太郎さん

第2部のパネルディスカッションは、手賀沼を愛し、再生を願って日々活動を行っている四団体の代表の方々が活発な議論を展開しました。以下に各団体のパネラーの発言要旨を記します。

我孫子野鳥を守る会（間野吉幸さん）

千葉県で最初の野鳥愛好団体として1972年に設立、40年以上の歴史があり、自然の中の野鳥を愛し、野鳥を通じて自然保護に努め、人と鳥が共存する環境づくりを目的に探鳥会、野鳥の調査研究、野鳥を中心とする自然保護に必要な活動を行っています。しかし、水質悪化でキンクロハジロが減少、水質が良くなるとハシビロガモが減少するなど難しい課題があります。手間がかかっても、冬水田んぼなど知恵を出しながら、市民の力を集約して取り組む必要あると考えています。

我孫子の景観を育てる会（富樫道廣さん）

景観条例の施行を受け、行政から背中を押されるかたちの市民団体として設立、景観を知る、景観を学ぶ、景観を守り、育てる、景観行政との協働を基本に活動しています。より多くの市民の方々に我孫子に関心をもってもらい活動が大切と考えています。

NPO法人手賀沼森友会（松清智洋さん）

森林は先祖から譲り受けたものではなく、未来から借り受けているものであり、より良い状態で次世代に引き継ぐ義務があるとの考え方のもと、県の森林課とも連携しながら、森林所有者との協定による整備活動を行い、地権者と地域住民の新しい共存共栄の関係を目指しています。地権者と市民の対立関係を解消すること、学校と連携して、子どもたちに森に入ってもらいなどの取組も有効ではないかと考えています。

NPO法人手賀沼トラスト（坂巻宗男さん）

手賀沼周辺の優れた景観や環境を守り、人と自然が共生する豊かで潤いのある地域づくりの推進を目的に、環境保全、農事・農教室、農地保全、交流事業を行っています。農家の高齢化、遊休農地の拡大など農家の環境変

化の中、遊休地が駐車場や資材置場となり、都市化する中で、最後の最後に反対運動が起きる。私たちは遊休地などを田んぼや畑に戻し、価値ある場所に変えていく活動が大変重要と考えています。我孫子には山階鳥類研究所もあります。大きな目標、例えばラムサール条約への登録などを掲げて、活動していくことが必要と考えます。

コメンテーター発言要旨（ケビン・ショート先生）

日本は行政的なシステムが弱い。一般市民の意識が低い。しかし、ここ10年、特に5年～6年、NP 法人が力をつけていることに注目している。この活動が市民や地権者の意識改革に繋がることを期待している。日本人は外圧に弱い。(笑い) ラムサール条約いいね。大いに頑張ってください。

討論終了後、会場から「手賀沼に放置されたボートの撤去はどうすればいいの？」「ハスの繁茂」「汚泥の放射能汚染」などを直視した対応が必要ではないか？ といった意見が出され、パネラーから見解が示されました。

最後にコメンテーターのNP 法人手賀沼 trusts の遠藤理事長から次のような「まとめ」の発言がありました。

「全国の沼の汚染度 No.1 が印旛沼、No.2 が手賀沼であることを皆さんご存知でしょうか？ 私たちは手賀沼をベースにした Landscape として一体的に自然を考える必要がある。生態系を取り戻し、自然と共生できる、住みよい地域は、住民一人ひとりが話し合い、考え、行動する中で、はじめて将来像が描けると考えます。」(拍手) (平井 幸夫 記)



(開場前の準備風景 配付資料の袋詰め作業)

## 会員コーナー

## 今日無事に感謝！

吉田 明

今年の成人式は低気圧の影響で全国的に大雪だった。私にとって成人式の日は何故か、天気の荒れることが多い気がする。私はこのような状況になると、積雪の多かった故郷のことや胃がんの手術をした日を思い出してしまう。その中でも2000年、年明けの1月10日の成人式は、翌日11日が胃がんの手術日だったので思い出深い。記憶の中では9日から雪が降り続き、翌日の成人式には柏市民会館へ向かう車が渋滞で立ち往生している光景が思い出される。手術は当初、担当医から聞いていた時間よりも早く終了、昼過ぎにはナースステーション横の病室に運ばれ看護婦さんより手術が成功したことを聞き安堵する。

翌日からリハビリが始まり順調に回復に向かった。1週間後にはそろそろ退院を考えてくださいと先生から言われました。体にはいろんな器具がついているわ、抜糸もしていない、食事は点滴のみ、風呂にも入っていないなどの状況だったので、一度体験してからにしていただけませんかとお願ひし、先生から吉田さんは験を担ぐ方ですかと言われ先勝にあたる30日が退院日となった。当日は食事療法を始め、日常生活の過ごし方、薬などについて詳しく説明をいただいた。説明の中

で私が特に印象に残った言葉は、野菜のみでは体力がつかないので魚や肉を食べて、調子が悪くなれば避ける、消化の悪いものは避ける、薬も飲まないでよければそれに越したことはないと言われ、その後、通院時に処方された薬も体調のよいときは飲まないようにしてきた。薬に頼らず日々の食事は偏食しないでバランスよく食べるように心がけている。免許は持たないので何処へ行くにも歩き専門。(農教室参加時は自転車利用。)

平成18年にトラストに入会し、初めて母なる大地(田圃や畑)に触れ、汗水流して収穫した旬の恵み(古代米、野菜など)の美味しさを実感し、それ以来、大地から元気を貰っていることに日々感謝している。過日、日野原重明さん(今年で102歳)の講演に巡り合え、その中で長生きするための秘訣として「寝方上手は生き方上手」「生き方上手は食べ方上手」「生き方上手は歩き方上手」「生き方上手は死に方上手」を拝聴しました。それと身近に元気なお年寄りの方がいらっしゃれば元気の秘訣を聞いてみることも一考ですよと付け加えられました。皆さん今年も母なる大地から元気を貰い頑張りましょう。

**【農地法解説】 「手賀沼沿い農用地活用計画」(仮称)(第7回) 理事 坂巻 宗男**

前号で記した農用地区域の設定を巡る我孫子市と千葉県との争いが終結し、根戸新田地区は「農用地区域」との判断がなされた今、我孫子市では新たな農地の活用計画が策定されています。

「(仮称)我孫子市手賀沼沿い農地活用計画(案)」です。この計画は今から10年ほど前に策定された「手賀沼農舞台」という計画を踏まえ作られているものです。

「手賀沼農舞台」では、手賀沼沿いの農地を保全活用していくため、菜の花やヒマワリなどの景観作物の栽培やサツマイモの観光農園、或いは果樹栽培への助成などが行われてきました。

今回の計画(案)でもこれらの事業を継承しながら、手賀沼沿いの農地の保全活用を図ることとなります。この計画(案)は今現在、我孫子市のパブリックコメントの手続により市民からの意見募集を行っており(3月6日まで)、変更されることも考えられますが、大きな柱立ては以下の通りです。

農用地等の保全・活用                      排水対策等の基盤改良                      農業者の負担軽減と所得向上  
担い手・後継者等の確保と農地活用の受け皿づくり  
市民の理解・協力の増進と連携による農地保全

となっています。

この中で、特に手賀沼トラストに期待されるのはと になるでしょう。 については、農業を担う新たな組織として、NPO法人手賀沼トラストがどのような事業を行えるのか、考えていかなければなりません。 については、より多くの市民の人たちに手賀沼沿いの農業を活性化させる枠組みに参加してもらう必要があり、そのような活動を15年前から行っている手賀沼トラストの経験が十分に役立つでしょう。

これは15周年のシンポジウムの際にも話しましたが、この手賀沼沿いの農地には毎年、銀座から子どもたちがサツマイモを掘りにやってきます。それは、この場所が東京という日本最大の消費地から近く、手賀沼を中心とした環境に恵まれている生産地だからこそ為し得るものです。このような特徴も踏まえながら、手賀沼沿いの農地の保全・活用は進められていかなければなりません。

**3月～4月度 活動計画 ( 全会員が対象の「合同活動」・「イベント」等に「網かけ」をしています。 )**

活動日	時間	区分	活動内容	担当部門
3/9	土 8:30	農教室	H25 年度開講式、堆肥作り	農事農教室 G
3/17	日 8:30	定例活動 養蜂部会	根戸城址周辺清掃、根戸城址管理、ハス田管理等 巣箱製作、蜜源圃場整備(定例活動終了後)	環境保全 G 々
3/23	土 8:30	農教室	ジャガイモ植付け、田んぼ畦補修	農事・農教室 G
3/27	水 9:00	竹教室	未定	環境保全 G
3/30	土 14:00	イベント	六角堂落語会(山遊亭金太郎師匠他)	交流事業 G
3/31	日 16:00	会議	16:00(15PJT)、18:00(H24 年度第 12 回定例理事会)	事務局
4/7	日 8:30	定例活動 養蜂部会	根戸城址周辺清掃、根戸城址管理 巣箱管理、蜜源圃場管理、(定例活動終了後)	環境保全 G 々
4/13	土 8:30	農教室	稲予措、ヘチマ・ニガウリ・カボチャ・ネギ・ニンジン播種	農事農教室 G
4/20	土 8:30	農教室	稲の播種、ヤツガシラ植付け	農事農教室 G
4/21	日 8:30	定例活動 養蜂部会	根戸城址周辺清掃、根戸城址管理 巣箱管理、蜜源圃場管理(定例活動終了後)	環境保全 G 々
4/24	水 8:30	合同活動	マルイグループ福祉会(根戸城址、金塚古墳周辺、ミカン山管理)	環境 G・交流 G
4/28	日 16:00	会議	16:00(15PJT)、18:00(安全管理委員会・定例理事会)	事務局

**お知らせ!**

3月2日(土)、けやきプラザにおいて、今年度の農教室入会希望者の説明会を行いました。「NPO法人手賀沼トラストの概要」と「農教室の概要」を説明したあと、質疑応答を行いました。23名の方が新しく入会されました。3月9日(土)の開講日から参加されます。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。(國方記)

**編集後記**

創立15周年記念シンポジウムはお蔭様で成功裏に終了することが出来ました。第2弾は7月の「手賀沼トラスト展」(仮称)です。3月末から準備が始まります。会員の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

3月5日は啓蟄。新入会員をお迎えして、農教室がスタートします。今年も豊作を願いつつ…。(國方記)